



歌舞伎や宝塚など舞台を観るのが水の上さん。中でも宝塚は追っかけるほどのファンなのだそう



「なつかしい味ですね」と水の上さん。おいしくいただいた後は、シェフの及川治道さんとルーマニア談義に花が咲く



ラドゥ・ルプーの演奏を聴いてルーマニアにあげられ、17年後にルーマニア行きを叶えた水の上さん。

「強く思いを持ちつつつけていると、叶うんですよ。フフフ……根性あるかしら(笑)」

生まれ故郷とルーマニアの風景には共通するものを感じるところも多く、ルーマニアでは「初めて訪れた気がしなかった」そうだ。さまざまな国を訪れたうちでも、もつとも違和感がなかったのだとい

う。今ではもつとも身近な国ともなり、夏休みに長期滞在するたびに「人間の原点がここにはある」と感じているとか。

「ルーマニアは料理もおいしいんですよ。日本人の口に合うんです。他の国に滞在していると和食が恋しくなったりするけど、ルーマニアだと恋しくならない(笑)」

というわけで、以前から来てみたかったというルーマニアレストラン「ダリエ」を訪れた水の上さん。

「自分でも作りますよ。私ね、食べたもの



レストラン内のアクセサリコーナーで「これ、まさに「ルーマニア」ですね。なつかしいな」

を再現するの、得意なんです。ルーマニア語は耳から覚えたし、料理は口から覚えたの！(笑)」

〈感性の人〉なのだ。

もちろん、ルーマニア料理以外にも、訪れた国の料理はなるべく作ってみるのだとか。

「キムチなんかも得意ですよ！ いろいろ作るから、私のは「無国籍料理」かな」

甘いものは苦手なほう、と言いつつ、デザートのパパナッシ(揚げドーナツ)もベロリ。

「ほら、やっぱり口に合うんですよ。おいしい！」